

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選び、正確に記入すること。

現金	普通預金	当座預金	売掛金	受取手形
仕掛品	立替金	未収還付法人税等	未収還付消費税	仮払消費税
備品	車両運搬具	建物	その他有価証券	買掛金
支払手形	電子記録債務	未払金	未払費用	未払消費税
未払法人税等	預り金	前受金	車両運搬具減価償却累計額	資本金
資本準備金	利益準備金	役員収益	役員原価	給料
減価償却費	通信費	広告宣伝費	旅費交通費	研究開発費
創立費	開業費	固定資産売却益	固定資産売却損	固定資産除却損

1. 会社の設立にあたり、発行可能株式総数 8,000 株のうち 5,000 株を 1 株当たり ¥2,000 で発行し、その全額について払込みを受け、払込金は当座預金とした。払込金額の 7 割に相当する金額を資本金とする。併せて、発起人の立て替えていた設立費用 ¥600,000 を現金で支払った。
2. X5 年 4 月 1 日に購入した車両（取得価額 ¥5,000,000、耐用年数 5 年、残存価額ゼロ、定額法・間接法による減価償却を行っている）を、X9 年 6 月 30 日に ¥600,000 で下取りに出し、同日に新車両を ¥6,000,000 で購入し、下取りに出した代金と新車両の購入価額の差額は現金で支払った。なお、当社は毎年 3 月 31 日を決算日としている。
3. 顧客に対する事務代行サービス提供が完了したため、サービス提供料として ¥800,000（入金は翌月末を予定している）を収益として計上する。なお、当該サービス提供に必要な費用として人件費 ¥100,000、通信費 ¥30,000 および旅費交通費 ¥22,000 が発生しており、仕掛品に計上していた。また、サービス提供が完了する直前に、当該サービスを行うために要した外注費 ¥15,000 を現金で支払っていたが未処理となっていた（仕掛品を経由せず、直接役員原価として計上する）。
4. 当期に支だし費用計上済みの給料 ¥4,500,000、旅費交通費 ¥250,000 および設備の減価償却費のうち ¥1,000,000 が、研究開発目的の費用であることが判明したため適切な勘定に振り替えた。
5. 前期末の決算手続にて算定した消費税の還付額が普通預金口座に入金された。なお、前期中に計上されていた仮受消費税は ¥16,500,000、仮払消費税は ¥29,700,000 であった。

第2問 (20点)

右京貿易株式会社(会計期間は1年、決算日は3月31日)のX2年4月における商品取引および関連取引に関する次の[資料]および[注意点]にもとづいて、下記の各問に答えなさい。なお、払出単価の計算には移動平均法を用い、商品売買取引の記帳には「販売のつど売上原価勘定に振り替える方法」を用いている。また、月次決算を行い、月末には英米式決算法によって総勘定元帳を締め切っている。

[資料]

		取引の内容
1日	前月繰越	甲商品：100個、@¥500 乙商品：400個、@¥1,500
3日	仕入	甲商品60個を@¥300で仕入れ、代金は掛けとした。
4日	売上	米国のニューヨーク社に対し、乙商品300個を@19ドルで販売し、代金は掛けとした。当日の為替レートは1ドル¥102だった。
11日	売上	茨城株式会社に対し、甲商品60個を@¥650で販売し、代金は掛けとした。
15日	売掛金回収	シアトル社に対する掛代金が決済され、当座預金口座に振り込まれた。当日の為替レートは1ドル¥100だった。
16日	仕入	甲商品200個を@¥440で仕入れ、代金は掛けとした。
20日	仕入	乙商品400個を@¥1,700で仕入れ、代金は掛けとした。
21日	買掛金決済	甲商品の仕入に係る買掛金¥30,000が決済され、割引¥1,500を控除した金額を当座預金口座より振り込んだ。
24日	売上	米国のアリゾナ社に対し、乙商品200個を@20ドルで販売し、代金は掛けとした。当日のレートは1ドル¥98だった。
29日	為替予約	アリゾナ社に対する売掛金について、今後の為替変動リスクに備えて、全額1ドル=¥96にてドルを円に交換する為替予約を締結した。ただし、当該売掛金の円換算額と、為替予約による円換算額との差額はすべて当期の損益として振当処理を行う。
	電子記録債権	茨城株式会社に対する売掛金の決済として、電子債権記録機関から取引銀行を通じて債権の発生記録の通知を受けた。
30日	実地棚卸	甲商品の実地棚卸数量は290個、正味売却価額は@¥420であった。 乙商品の実地棚卸数量は298個、正味売却価額は@¥1,900であった。

[注意点]

1. 当社は、売上計上を認識する基準として出荷基準を採用している。
2. 当社は、毎月末に実地棚卸を行って棚卸減耗損および商品評価損を把握している。棚卸減耗損および商品評価損はいずれも売上原価に算入する。
3. 前期の2月に米国のシアトル社に対して甲商品600個を@12ドルで販売しており、代金は2か月後払いの掛けとした。販売時の為替レートは1ドル¥102であった。
4. 為替予約に関する処理は振当処理を行っている。
5. 各月末の為替レートは次の通りである。なお、外貨建て債権債務は毎月換算替えを行っている。
前月末 1ドル¥103
当月末 1ドル¥95
6. 上記の[資料]および[注意点]以外に商品売買に関連する取引は一切存在しない。

問1 答案用紙の売掛金勘定および商品勘定の記入を示しなさい。

問2 ①当月の売上高、②当月の売上原価および③当月の為替差損益の金額を示しなさい。